

ぽっかぽか

R5. 5. 16

園長だより NO.1

富士市立天間幼稚園



令和5年度がスタートして、一か月が過ぎました。

幼稚園生活の中では、子ども達一人一人に、毎日、驚きや発見、うれしいこと、悲しいこと、楽しいことが、次々とめまぐるしく起こっています。そこで感じる感情や体験の積み重ねが、人格形成の基礎となっていくことを意識しながら、職員一同、気持ちに寄り添っていかこうと思っています。

これは何をしているところかわかりますか？



(答え) 土から出てきた大きなミミズをみんなで見ているところです。

ミミズの動きの一つ一つを驚きながら見守っています。子どもたちの頭の寄せ合い方で、どれだけ興味をもって見ているかがわかると思います。「うわあ〜！」とか「すごい！」とか出る言葉は簡単なものですが、確かに心が動いている瞬間です。そんな時は、教師も一緒に見守ります。ずっと見ている時間が、幼稚園の学びの場です。豊かな表現につながっていくためには、心にたくさんの感動をため込むことが必要です。そして、実際によく見ることで、生き物や自然物への興味関心が高まっています。興味があるからこそ知りたくなり、年齢が上がるにつれて、勉強したくなる…につながります。

年長児たちの山作りの会話から…

「ねえ、〇〇くん、私の赤いシャベルが見えてきた？」 「まだだよ。」

友達と力を合わせて山にトンネルを作っています。年長児になると、相手に伝わるように話すことができるようになっていきます。相手から見て、どう見えるかがわかって話をしています。相手の側に立って話をすることは、年少、年中にはまだ難しいです。でも、楽しい遊びを繰り返すうちに、友達との遊びに楽しさを感じ、伝える力が育っていきます。



年少児のおしゃれ



シロツメクサを先生と一緒に摘んで遊びました。4. 5月の年少児のねらいは、「教師と触れ合い安心して遊ぶ」「教師のそばで好きな遊びを楽しむ」です。

お花を指輪にしてもらって、大満足な子どもたち…。おしゃれになった手を皆に見せてもらいました。

先生と一緒に過ごしながら、友達と同じことをして楽しいと感じるきっかけにもなっています。そこからだんだん、友達へと興味が広がっていきます。